ふるさとの鼓動
北に生きる心
むすんで

=ホームページにカラー版を掲載中！=

こぶし

第 138 号　　２０１３年　８月９日発行
発行責任者：横井正人　　編集：機関紙局
特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座　北海道函館市陣川町 122-172
TEL:0138-54-2859　FAX:0138-84-8207　　年２回発行
E-mail:kobusiza@wing.ocn.ne.jp　http://www18.ocn.ne.jp/~kobusiza/

主な内容

（１）東北の旅（関連記事）
（２）チタッペ完成に寄せて（寄稿）
（３）公演報告（寄稿）
（４）第 15 回通常総会の報告
（５）今年度の公演計画　ほか

暑中お見舞い申し上げます。

［夏を彩る本部前のアジサイ］

皆様いかがお過ごしでしょうか。今年も猛暑による熱中症、そして大雨による災害が各地でおきています。

被害を受けられた皆様、そして今なお、震災後の生活再建に努力されている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

二〇一三年のこの夏、多くの庶民が望む「暮らし向きが良くなるように」との願いは、「アベノミクス」なるものを掲げる政権党が圧倒的に勝利する形となって表れました。「ねじれ」解消を訴える人たちが、新しい「ねじれ」をうみだしている現実を前に、若い世代が新たな期待先として信頼を寄せた対局が前進したことに、時代の〝熱〟を実感しています。

こちら函館では、全国からの５万人もの聴衆を集めた、地元出身の若者たちでつくる「ＧＬＡＹ」の野外ライブが行われ、いつもとは違う〝熱〟を帯びた夏となっています。

さて、私たちは先月、23～26日の日程で「被災地・東北体験の旅」に行ってきました。被災地の今を体感しながら、地域の芸能を継承し続ける人たちとの出会いや再会を通して、自らの生き方の糧となるエネルギーを頂きました。

「学び」をテーマにおいた前半期。

いよいよこれからが本格的な活動展開です。

暑い夏を乗り越え、元気に皆様のもとへ伺いたいと思います。

皆様もどうぞお身体に配慮され、お元気でお過ごし下さい。

今再び、「震災」を捉え直すために…

芸能と向き合い、時代を生き抜く人々から新たなる力を学ぶため、三泊四日の日程で東北地方を訪れました。概要を報告します。

《7月23日(火)》

午前三時、フェリー出航。

被災地へ赴く複雑な想いと、未知なる体験への不安を伴う静かな興奮を感じながら青森に着く。高速道を直走り、気仙沼市に入る。建物の基礎部分を残し更地化した光景が目立つ。流されてきたとは思えないほどの大型漁船が道路脇にある。陸前高田市は、どこが市街地だったのか全くわからない。夜は、仙台「ほうねん座」にお世話になった。地震被害で事務所棟が傾き使えなくなっていた。被災地域に根を下ろし活動を展開させる座員たちに、連帯せねばと強く思う。原発事故で川魚を捕食できない話も伺う。今後、自然界への償いといかに向き合えと言うのか。原発に怒！

《7月24日(水)》

朝、石巻市から牡鹿半島を目指す。半島の付け根、女川原発のある女川の街は甚大な被害にあった事が一目瞭然。原発の山陰に位置する寄磯浜地域で、「実業団」メンバーとの念願の出会い。

夕刻、直接被害を免れた内陸部―花巻市「東和町立石百姓踊り保存会」蟹沢邦義代表宅へ。何処までも広がる水田の瑞々しい緑に癒やされる。つかの間の交流後、再会を促して下さる温かく大きな手と握手を交わした。

《7月25日(木)》

盛岡市内を朝早くに出発。「三本柳さんさ踊り保存会」藤澤春夫ご夫妻のお宅へ。袋小路に迷い込み尋ねた家が何とご本人宅。函館にいらして下さったお礼もそこそこに、楽しい話に花が咲いた。

午後からは、ＮＨＫ朝ドラ「あまちゃん」で有名な久慈市の隣街、野田村での「野田村保育所ボランティア公演」。園児と職員、駐在さんや地元の大人たちを含めて150名程。最後の獅子舞では会場中が大賑わい。お獅子に咬ませた「げんきにがんばろうネ」の垂れ幕で〆！実に楽しく共に満ち足りたひと時を送る。夜は、公演を計画・準備してくれた新山康弘君を囲んでのお礼の懇親。ユニークでいて生真面目で、深い視点で物事を語るけれど子どもっぽく茶目っ気があり、独自の耕作法で田畑を耕しながら、地元の神楽を継承する。あの日は消防団員として園児等を誘導し、より遠くへと避難させたという。地域に根付く「神楽びと」が語る様々な話に心打たれ、夜が更けるまで聞き惚れた。

《7月26日(金)》

帰路の途中、八戸市「妙えんぶり組」メンバーとの再会。四人もの方が仕事着姿で来てくれた。お土産まで携えて…。

自らの営みの中に芸能を宿し継承させてきた誇りが目映いほどきらめく人達との、熱い出会いの旅となった。

（計良　徹・記）

『寄磯ばやし』のふるさとを訪ねて

海上安全の守護神が祭られている「安波大杉大明神」祭礼の正月行事として、「獅子振り舞」の芸能が代々受け継がれている寄磯地区。この獅子振りに囃されるのが寄磯ばやしである。

三十年前に前代表の國田が取材していて、「東北と北海道の心を繋ぐ」大切なお囃子として今も演奏している。

＊

仕事の合間をぬって集まってくださった実業団（年中行事の世話や地域生活の中心を担う青年団を含む組織で獅子振り舞を行う）三人の飾らぬ人柄に魅せられ、短い時間のなか貴重な体験とお話しを聞かせていただいた。

＊

標高１５３メートルの「安波大杉大明神」を目指し、急峻な山道を登ることになった。蛇が出るからと木の枝で道をかき分ける実業団メンバーを先頭に、一列になって後に続く。鳥居をくぐり更に急な石段を登ると小さな社が見えてきた。副団長の打つ大きな釣鐘の音が山に鳴り響き、扉が開けられた。

北海道から持って来たお酒を供え、手を合わせた。

やっと来ることができた…沢山の想いが頭を駆けめぐり黙祷した。

幸いにもご神体である獅子頭が難を免れたことで、震災の翌年も休むことなく正月の獅子振りが行われ、無病息災・家内安全を願い高台に残る住宅と仮設住宅を回り歩くことが出来たそうだ。

四十人程いる実業団の中には、漁が出来ないので出稼ぎをして石巻市などに居住せざるを得ず、行事には通いで参加しなければならないメンバーもいるとの事。

「道路が整備されもう少し便利になれば、若い人たちも地元を離れないで済むのに…」と語る副団長。

「浜の匂いがいいんだよなぁ俺はここが好きなんだよな！何でみんな出て行くんかなぁ…」空を見上げる団長。

思うに任せぬ復興の現実と過疎化に拍車がかかるジレンマが伝わってくる。

瓦礫が取り払われた港には土嚢が積み上げられ、小型の重機と共にコンクリートブロックが点在していて人の姿は見あたらない。

実業団の３人のメンバーと「社」の前で

「港の改修も順番だからな、みんな状況は同じだから…」

「俺の家、建て直してるのさ！ここから何処にも出て行けないように！」団長・渡辺さんの笑顔に、寄磯で生き抜く覚悟がほとばしっていた。

「俺は来月からサンマ漁で釧路に行くんだよ。五月の祭りにでも来て歌や踊り見せてくれればいいな。」太鼓好きな幹事の元宏君。

「今度は正月に来ればいいよ獅子振りも観られるし…。」副団長・鈴木さんの優しい言葉が胸に染みる。

来てよかった…出会えてよかった…心からの感謝と再会を願っての別れとなった。

「原発反対！実業団」

高台に立つ看板が、私たちを見送ってくれた。

（計良正子・記）

この度の「東北の旅」で訪ねた北三陸・野田村。農業を営み、消防団の活動や地域の祭りの担い手として奮闘する私たちの大切な友人、新山康弘君からボランティア公演について報告してもらいました。

保育所公演を終えて

新山康弘（野田村在住）

野田村は、岩手県沿岸北部に位置し、東日本大震災では、大津波で村の中心部や海岸沿いの集落などが、壊滅的な被害に遭いました。

その中で命を落とす方々もいました。また、自宅が全壊して、避難所生活をしなければならない人々もいました。あの日から２年５ヶ月が過ぎようとしています。被災された方々は仮設住宅で３度目の夏を迎えました。

集落･山手の高台に建つ、新しくなった「野田村保育所」。

今年の６月のある日、一本の電話が、こぶし座さんから自宅に入りました。電話の内容は、７月25日に野田村に立ち寄りたいとの事でした。せっかくの機会なので保育所で公演をしてもらいたいと思い、園長先生にお話をしたところ「是非お願いします。」という返事を頂き、こぶし座さんにボランティア公演をお願いしました。

当日は、保育所で待ち合わせる予定でしたが、こぶし座さんから電話があり、道に迷ったとの事でした。迎えに行き聞いたところ、車のカーナビに従って行った場所は津波によって建物が流された保育所の跡地でした。

❀

震災の時、海岸近くの平地にあった保育所は、大津波で建物全部が流失し、跡には何一つ残っていない状況でした。地震の時、子どもたちは保育所内に残っていましたが、園長先生や保育士さんの早い避難行動によって一人の怪我人も無く全員無事でした。その後、地域の公民館で保育を続けて、現在は高地に新しい保育所が建設され、子どもたちはそこで、元気に過ごしています。

７月25日午後３時、お昼寝を終わりおやつを食べた園児たちが保育所ホールに集まりました。園児の親や、地域の人たちも集まって下さり、公演が始まりました。唄や踊りに笑ったり、太鼓や獅子舞に喜んだり、泣いたりと大騒ぎでした。公演が終了し園児たちから座員のみなさんにお礼として「ありがとうの花」という歌が元気よく歌われました。周りの大人の目からは次々と涙が溢れ出しました。

私は今回の公演は、こぶし座から子どもたちへ、そして、子どもたちから大人たちに勇気をもらった様な気持ちになりました。

❀　❀

本当の地域の復興はこれからかも知れません。いつか子どもたちに「ありがとう」と言ってもらえる社会を作っていかなければなりません。

最後に、こぶし座の座員の方々に心から感謝します。

「ありがとう」

『東北』

公演部・村田さつき

今回は被災地を巡るだけでなく、仙台のほうねん座や、かねがねお世話になっている東北各地の伝統芸能保存会の方々にお会いする機会をもつ事ができた。これ以上ないというくらい得難い時間を過ごした。しかし、お会いした方々とさして会話らしい会話を交わした訳ではない。では、何故ここまで自分の胸に何か熱いものが込みあげているのか。あえて言うなら、その個人や集団が醸し出しているものや立ち姿に、心が激しく揺さぶられたとしか言いようがない。

東北では、今では青年団や事業団と呼ばれている相互補助組織「契約講」が伝統として残っている地域が多いと聞く。そのような協働の考え方が生活に根付き苦楽を共にしてきたであろう歴史を考えた時、図らずもこぶし座の生き方と相通じるものを感じる。

私が勤め始めた頃、民間伝承や村々に伝わる祭りを紹介する番組「ふるさとの伝承」に夢中になっていた。その世界観を体現する人たちに出会い続けたために、当時から抱いていた郷土の芸能を愛情を持ってその土地の者が受け継いでいく―ということへの憧れの念が、感極まった状態になったのかも知れない。

暑い中、待ち続けてくれた「妙えんぶり組」の方々と。

7月という、生命が最も生き生きとしている時期の東北を感じられたことは良い経験になった。そして、厳冬の東北も体感したいと切に思う。

＊

震災という側面だけで東北のことを捉えようとすると、考えが先に進まず〝自分に出来ることは何なのか〟というところに留まっていたが、想いを行動に移す。まずは東北に行ってみるということから始めたって良かったんだ。と思えたことは自分にとって収穫だった。行動を起こすことで、今まで自分の中で蓄積されていた何かと結びつき化学反応が起きて新しい考えが産まれる。震災によって新たなコミュニティのつくり直しを余儀なくされている方々の多いことを肝に銘じ、一層考え続けていきたい。

今年度の前半には、地元、道南で二つの公演を取り組んで頂きました。一つは、座員・松岡の出身地―長万部町。もう一つは、函館市の花園地域です。実行委員会を代表し、お二人からの報告です。

五年ぶりの長万部公演

村松和弘

こぶし座の長万部公演が六月二十一日五年ぶりに開催されました。

長万部町は人口減少と景気の低迷で、こぶし座の公演を開催することには二の足を踏みましたが、座員である松岡智恵美さんとは同級生という事もあり、何とか故郷で公演をさせてあげたいとの思いで、受けることにしました。

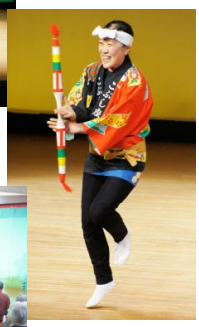
前回もお手伝いしてくれたメンバーが、もう一度集まって実行委員会が立ち上がり公演に向けて準備が始まりました。

自分のやりたい事に一生懸命取り組んでいる智恵美の姿を、長万部町に住む家族に観せてあげる事も目標の一つとなりました。特に智恵美のお母さんは高齢な事もあり、是非みてほしかったのです。足が不自由なお母さんを会場まで連れてくることすら簡単ではありませんが、家族のお手伝いと会場係の協力で何とか無事に舞台を観せることができました。

公演中お母さんが笑顔で楽しんでいたのが嬉しく、チケット販売など大変なこともありましたが、開催して本当に良かったと思っています。

会場に来て頂いた観客の反応も前回にも増して評判が良く、みなさん笑顔で帰って行きました。

我が街、長万部町いっぱいに、笑顔の花を咲かせたいものです。



花園地域公演

三根厚子（後援会員）

6月29日(土)午後2時、花園大谷幼稚園で、こぶし座花園地域公演が行われました。この地域での公演は4年ぶりで、前回同様、花園学童クラブが共催で力を発揮しました。また、会場の幼稚園は、翌日が運動会にも拘わらず、地域の文化行事には協力を惜しまないとの長谷川艶子園長のご厚意で、貸していただきました。

4月末に、どんどこどん和太鼓サークルのメンバー、学童指導員、会場付近の三つの町内在住の後援会員など7人で実行委員会を立ち上げ、その後、4回の打ち合わせ会を持ち、当日を迎えました。

最低経費を生み出す予算は、一般130人と学生30人分のチケット代で組みました。6月18日の実行委員会では、現金化されたのが24人分でした。会計係の私は、ハラハラしましたが、5枚、10枚とチケットを預かってくださる方が広がっていて、110人まで確認されていることがわかり、見通しが立ちました。最終的には、180人と超過達成できました。

当日は天気も良く、近所の方がのんびり歩いて来られるのは、地域公演ならではの光景でした。

美しい手踊り、おはやしの笛・太鼓、一家総出の農作業風景、怖そうだけれど滑稽さもある獅子舞…学童クラブの子どもたちから、80代の方まで140人以上が、一緒になって拍手をおくり、手遊びで夢中になり、日常では味わえないひとときを過ごしました。それが、こぶし座の魅力なのだと、つくづく思いました。

《後日談〜》

花園学童クラブの子どもたちが、夏休みを利用してのハイキング行事で「こぶし座」に遊びに来ました。みんなで汗だくになって、太鼓を楽しんでいました。

北風磯吉エカシに導かれて
天塩川流域のアイヌ文化を伝承する函館在住の佐藤幸夫氏より、寄稿して頂きましたので紹介します。

『チタラペ』の完成に寄せて

昨年六月、村田政昭さんが「こぶし座」代表の横井さんを伴って、イナウ作りを教えてほしいと自宅を訪ねて来た。当日勤務でお会い出来なかった。その後電話があり「イナウ」とはアイヌ民族とってどのような意味を持った物か説明をした。

横井さんの話では、アイヌ民族が伝承している民族舞踊「弓の舞」の踊りに使用するイナウを含め教えてほしいとのことであった。

イナウケ（木弊削り）当日、私が開催したチタラペを編む講座中でもあり編んでいる姿を見て、私達も編みたいと語った。材料があれば教えますと答えた。

❀　❀

今年四月、横井さんから連絡があり「莫蓙を編みたいのだが材料は無いのですが無理だろうか」と打診があった。

五・六月の二ヶ月で編むのならば教えます。しかし、六月三～十日までは、私が名寄で開催する「第二十四回北風磯吉家のカムイノミと名寄に在住したエカシ・フチへのイチャルパ（イアレ）（供養）」で不在となることも伝えた。

日数から計算するとあまり大きな物は作れないと考えていた。

完成した「チタラペ」（莫蓙）を前に。

❀　❀

連休明け三人の女性が打合せに訪れ、私の所有する莫蓙の種類を見てもらい手触り、足で踏んで感触を覚えていただいた。模様、ガマ、木の皮の種類、編み糸の撚り方の説明を行った。三人の打合せにより、莫蓙の大きさは、巾1m弱×長さ2m以上、材料はできうるかぎり古い方法、作業は編み手と補助2名体制で取り組みたいと希望が出された。

この五十日という限られた時間内には稽古、公演、休日、複数者の作業による個々の癖をどの様に対処するか等を考えると、どの様な計画を立て進めて行くか途方に暮れた。取り敢えず六月完成に向け編み手には編む事にだけ専念してもらい、私が模様に使用する木の皮の染物、編み糸、ガマの選定、編み機の手直し（編み目）等補助することとして、とにかく前に進めるしか方法がなかった。

チタラペが少しずつ編み上がっていくのを見て喜び、編み直しをしないように何度も確認、しかし、間違いがあればお互いが励まし合い、一日の目標の編み目を十八段と決める様になるとチームワークが最大限に発揮されて行った。

作業中の会話の中から、常呂町の金谷栄二郎さん（故人）から「トンコリ製作と弾き方」を学び、萱野、中本氏をはじめ保存会から直接「舞踊」を習い、指導者が納得されるまで公演をしないと言う徹底した「意志」を持って活動している事を知った。

儀式の準備をする佐藤幸夫氏
（作業は４時間を超えた…）

初めての経験であり、まして複数で手掛けているにもかかわらず素晴らしいチタラペが仕上がりつつあった。

座員がイナウを削り、チタラペ（カムイチタラペ）を完成させようと頑張る「熱意」の中に、日本各地に残り伝えられ続けて来た民俗芸能の真髄を極めようとする姿勢に私自身「熱い物」を感じた（七月十日完成）。

❀　❀

名寄内渕コタンのフチから教えられた話に「それぞれの人には憑き神が附いていて、本人が気が付かないうちに相手と相談をしてその様に仕向けて居るんだよ」。静内の葛野辰次郎家のカムイノミに参加し、イナウケの時、エカシから「イナウを作り日本語であっても心を込めて神に祈れば神々は気持ち良く受け取ってくれるんだよ」だから頑張りなさいと励ましてくれた。

微力ではあるが、その教えに従ってカムイノミを行いたいことをこぶし座に伝えた。

❀

その結果、七月十二日に、計良事務局長の協力を得て、横井代表の採って来た柳を使いヌサ（祭壇）を作り、午後から座の炉を使用して座員と私夫婦とでカムイノミを行った。これも神々が見守ってくれた御陰である。（感謝）

今後、神々が鎮座するヌサの前で「心」のこもった舞を披露していただきたい。

初心を忘れず
頑張れ「こぶし座」!!

天塩川流域のアイヌ文化
北風磯吉（人間史）
佐藤　幸夫

司祭・佐藤幸夫氏のアイヌ語による「カムイノミ」を終えて…
ご夫妻に心から感謝！

【略歴】
51 名寄市生まれ
71 旭川・尾沢カンシャトク・川村カ子トアイヌ両エカシから、北風磯吉エカシの歴史を書き残してほしいと依頼を受ける。
北風磯吉追悼会開催（名寄郷土史研究会主催）
72 国鉄に就職
78 古式にのっとった「丸木舟製作実験と天塩川下り」（名寄郷土史研究会20周年記念事業）
81 「中央公論」特集―日本論への新視点（こころの文化）で北風磯吉翁の生き方が評価を受ける
87 北風磯吉翁木碑建立（名寄市緑ヶ丘39-60）
00 北風磯吉翁木碑破壊される
01 北風磯吉翁木碑再建立（故・杉村満エカシ作）
02 故人 北風磯吉・杉村満
両エカシのイアレ（イチャルパ）を開催（名寄市）
06 「アイヌ生活文化再現マニュアル」先祖供養 旭川編 副祭司（財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構）
07 弁開凧次郎エカシのイチャルパ（落部）同上、実施／09年・13年
10 JR退職（エルダー社員）
12 チタラペ製作講座開講（函館）
13 エルダー社員退職
第二十四回北風磯吉家カムイノミと名寄に在住したエカシ・フチのイチャルパ（イアレ）開催（名寄）

〈著書ほか〉
・北風磯吉（一）（道北文化研究No 9）
・北風磯吉（二）（道北文化研究No 10）
・「丸木舟製作実験と天塩川下り」の報告書（道北文化研究No 11）
・北風磯吉資料（名寄市教育委員会）
など

※本文中の「村田政昭さん」…座員・村田さつきの父親で、工房を主宰し木工指導している。

…イヨッタ　ピリカ
アトゥンキナ
アンテセ　ワ…

…美しい莫蓙を
私たちは編みます…

「いい言葉を見つけましたよ。今のあなたたちにピッタリ」

佐藤さんがプレゼントしてくれたこの言葉を胸に、初めての莫蓙編みに挑んだ。

三列編んで約2.5cm、費やす時間約1時間。完成までにいったい何時間？…無謀とも思えるスタートだった。

「おや…ここ違ってない？」

「えっ？ぁ…」三列解いてやり直し。「なーに、また編めばいいことだもの、大したことないって」青ざめる私たちを励まし、見守ってくれる。集中に欠けてくると決まって「さぁ休憩」とお茶菓子を持って奥さん、「良いじゃない！ステキよ。ほら離れて見て」。ご夫妻と並び、だんだんと編み上がっていくチタラペを眺めながら本当に美しい…そう思った。

二人ひと組での製作作業です。
（佐藤さん宅の庭先をお借りして）

今では見つけるのも大変なガマ、染めた木の皮、指紋が無くなるほど時間をかけ撚った樹皮の糸、そしてそれらを編み込んでいく作業。自然の恵みと人間の知恵が織りなす美しさなのだと感動した。

手間をかけるほど、愛着も自然への感謝の気持ちも深まっていく。これが日々の暮らしの中で行われ伝えられてきた…忘れてはならない大切な事を手渡してもらった。

＊

「ばーちゃんたち、よく教えたねって褒めてくれるなぁ」と、しみじみ語る佐藤さんにアイヌの方たちへの深い愛情を感じながら、ご夫妻と出会えた喜びをかみしめた。

憑き神さまに感謝。

カムイノミにより魂を吹き込まれたチタラペ・ヌサに私たちの思いを重ね、子どもたちに届けに行こう！

（松岡智恵美・記）

材料のガマです。水に浸して…。

まなぶ

体験…体感！体得！！

ステキな出会いと
たくさんの愛情に
支えられて…

阿寒アイヌ民族文化保存会に学ぶ

創演部・計良正子

まだ雪の残る三月、阿寒のアイヌコタンを訪ね、保存会のみなさんから踊りを教えていただいた。

「まずは私たちの踊りを真似て一緒に踊ってみましょう。」

言われるままに輪に入ると、自然に身体が踊り出し、楽しくなってきて歌までも口ずさんでしまう…ウタレ　オブンバレ　ワ（はじめの踊り）

種を蒔いて土をかけ収穫し団子を作るまでを振り付けたシチョチョイ（豊年踊り）は、一つ一つの動作が丁寧に表現されていて団子を丸める動作などつい顔がほころんでしまう。そして、二人が組になり一枚のお盆を交互に投げては受け取り落とした方が負けとなる、お盆投げ遊びの踊り。

三種類の踊りを、会長の松田健治氏を始め、踊り部長の床みどりさん、歌い手の日川キク子さんほか六名の方が、楽しく・厳しく・丁寧に指導してくださった。

「昔のばあちゃんはたしか…こうやって踊ってたわよね。ここの向きはどうだったかしら？」

祖先から受け継がれた舞踊が、一人ひとりの身体を通して絶えることなく確かめられ、息が吹き込まれていく。

講習会終了後は、松田会長のお店で懇親会が準備されていて、会食をしながらの楽しい交流が夜遅くまで続き、「これを機会に繋がりを深めて行きましょう！」会長の温かい言葉が胸に響いた。

心からお礼申し上げます。

松田健治会長のお店で、遅くまで交流させて頂きました。

阿寒湖畔にある生活館で…。
丁寧なご指導に感謝です！

挑戦！〝道南口説節〟

公演部・松岡智恵美

〜オイヤーサーエー

「これはね、御免下さいという意味なの、だから家の人に呼びかけるようにね」

先生の指導に、門付けする瞽女（ごぜ）さんへ思いを馳せる…

民謡を継続して学びたいとの思いから、今年5月、これまでもお世話になってきた、三浦一子先生の民謡教室へ通いはじめました。

やるからには目標をと、7月に函館で開催の道南口説節全国大会に挑戦、思いっきり恥をかいて沢山学ぶ！そう決め、座の仲間に宣言しました。

一般の部・予選参加およそ百人が次々と唄い、順番を待つ間、手の平は自分でも驚くほどの汗。そんな私に先生たちが「もう細かいところは気にしない。あなたらしく、大きな声で、大らかに、おもいっきり唄いなさい。それで失敗したら後悔しないから」と。その励ましに肩の力がスッと抜け、良くも悪くも思いきり唄う事ができました。

おまけに予選通過35名の中に！生まれて初めてメダルをもらいました。

翌日の決戦大会は〝唄えただけで良し〟だったのは言うまでもありません。

教室に通った3ヶ月。民謡をこよなく愛する先生の元で長い間唄い続けてきた人たちの心地よい節回し、可愛い子どもたちの唄に、民謡の楽しさ、大切さを味わいました。

唄の中にある情景を心でとらえ、自分の節にのせる…先生から教わった沢山の事を身体に染みこませる挑戦がこれから始まります。

《道南口説節》

元歌は、越後の瞽女（ごぜ）さんにより伝えられたと言われている。盲目の旅芸人として流浪の生活を送り、行く先々で見聞きした事柄や各地の地名を取り入れ唄ってきたものが道南各地に残されていた。

古老たちが『下のくどき節』（下海岸地方）と呼び、それぞれ独自に唄っていたものを函館在住の民謡歌手「佐々木基晴」氏が発掘調査して、昭和28年頃に現在の形にした。

先生たちの演奏に支えられて
（太鼓が三浦先生）

第15回・「通常総会」開かれる。
新しい仲間を迎え入れて…
遅くなりましたが、報告致します。

さる、四月二十八日(日)「第十五回通常総会」が行われました。社員総数十七名、出席数十二名。横井理事長の挨拶の後、開会となりました。

＊

第一号議案「二〇一二年度事業報告」では、道内4ヵ所の振興局での助成事業として実施した一般公演など、百二十一回(一二、一三〇人)の公演・講座を実施できたことや、例年実施の函館市の事業と小学校音楽研究会で講師を任され活動したことなどが報告されました。

第二号議案「二〇一二年度収支決算報告」では、昨年以上に厳しい収入状況の中でも一層の運営費減に努力し、多くの支援を頂きながら建築物の修繕の継続化をはかってきたことが報告されました。

続いて「監査報告」が行われました。

第三号議案「二〇一三年度事業計画」では、震災復興支援に繋がる公演活動と大胆な公演準備活動の実施を大きな方針と掲げました。また、現状での公演の動きについて、目標までの到達率が六割を超えており、早い動き出しの刈り取り成果が前倒しに現れている事が報告されました。

第四号議案「二〇一三年度収支予算」では、さらに厳しい財政運営が求められることを想定しながらも、本部建築物の継続的な修繕事業実施と借入の返済、そして、その為の目標達成の必要性が提案されました。以上、全議案が承認され審議を終わりました。

＊　＊

尚、冒頭の理事会報告と理事長からの挨拶の中で、三浦恒雄・芙美子ご夫妻の脱退と新しく加わった馬場雅さんについて報告・確認されました。

又、西東社員が転勤して来た事も話題になりました。

今年度もよろしくお願いします！

『社員』となって
七飯町・馬場　雅（たただし）

こぶし座とは檜山の教員時代の初任地、北檜山町の若松で公演した時の実行委員会で他の先生方と取り組んだのが最初の出会いでした。

（横井代表がその時に我が家に泊まり同じ釜の飯を食べました）

その後、「檜山座」という檜山の教職員の文化活動推進の組織で、民舞・笛・太鼓などをこぶし座から学び、その活動を見て、信頼を深めていきました。

また、音鑑の活動の中で國田さんの奥さんに娘の面倒をみてもらったり、とても家族がお世話になりました。

これらのことが、こぶし座の社員となることを決めた理由です。

こぶし座の活動状況や財政の厳しさ、その中でも稽古・研鑽を欠かさずに全国に行き地域の芸能を学ぶ姿勢を知り、頭の下がる思いでした。頭を下げるだけでなく、頭も身体も使ってこぶし座の社員として何ができるかを聞きながら働いていきたいです。

※5月から月1回、西東社員等と笛や太鼓を楽しんでいる。

ざッ体験!
「田植えってイ～ネ!!」編

6月5日晴天。

文句無しの田植え日和。

稲作農家の澤谷さん（市内赤川町で農業を営む）のご好意により実現したこの日の朝、にわか仕立ての野良着を着込み田んぼに行くと作業は既に始まっていた。挨拶もそこそこに、「ほら、これを腰さつけて。」と手渡された苗カゴを腰にくくり付け、いざ田んぼへ。裸足で畦を歩いていくと足裏から伝わる泥の感触が懐かしい。

記念すべき第一歩を踏み込む。

手植えっていいなぁと感慨に浸りつつ植えていく。

時折、田を渡っていく風が頬をなでていく。

夢のような一時…。

植え終わる頃には、苗一本一本が愛しく思えてくるから不思議だ。

何と！「豊年こいこい」でお馴染みの〝小昼〟も体験してしまった。ヤッター!!

澤谷さんの言葉少なだが背中で語る格好良さにシビレながら、心の中で「利潤目的の市場経済反対ー!!」「グローバル化の波にのまれたままでいたくないゾー!!」と、一人シュプレヒコールを誰に聞かせる訳でなく叫んでいた。

澤谷さんとご家族の皆さん、ありがとうございました。

田植え初体験!!日本の食を考えます…。

【今年の公演計画】8月～12月

＜一般公演＞
10/10(木) 厚沢部町・町民交流センターあゆみ(実行委)
11/09(土) 黒松内町・町民総合センター(町教育委員会)
11/10(日) 共和町・生涯学習センター(実行委員会)
11/16(土) 上ノ国町・上ノ国小学校体育館(実行委員会)
11/17(日) 七飯町・大中山コモン(実行委員会)
11/23(土) 北広島市・ふれあい学習センター(夢プラザ)
11/24(日) むかわ町・四季の館(ピスアンリ/実行委員会)
11/29(金) 和寒町・町公民館「恵み野ホール」(実行委)
11/30(土) 名寄市・名寄小学校体育館(実行委員会)
12/02(月) 幕別町・百年記念ホール(実行委員会)
12/03(火) 音更町・文化センター(実行委員会)
12/05(木) 芽室町・めむろ駅前プラザ(実行委員会)

＜学校公演＞
08/23(金) 北見市・小泉小学校
08/27(火) 札幌市・北野台小学校
08/29(木) 釧路市・清明小学校
08/30(金) 釧路市・美原小学校
09/03(火) 釧路市・芦野小学校
09/04(水) 置戸町・置戸小学校
09/06(金) 恵庭市・和光小学校
09/20(金) 北見市・美山小学校

＜保育園・幼稚園公演＞
09/02(月) 釧路市・弘済会愛国保育所
釧路市・昭和どんぐりの家保育園
10/07(月) 函館市・人見保育園
10/08(火) 七飯町・七飯ほんちょう保育園
11/12(火) 札幌市・あつべつきた幼稚園
11/13(水) 札幌市・菊水上町保育園
札幌市・北の星白石保育園